はじめに

成田市教育委員会

教育長 関 川 義 雄

本年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症に変更となり、学校をはじめ公民館や図書館の利用に際してコロナ禍以前の状態に戻すことができるようになりました。また、今年度から市内の全ての市立小中、義務教育学校で学校運営協議会制度、所謂コミュニティースクールの運営を開始いたしました。それぞれの学校がこの制度を十分活用して、より良い教育の実践に向けた取り組みがなされることを期待しています。

さて、そのコロナ禍において学校だけでなく社会全体が様々な制約を受けたことも起因してか、現在、小中学生で不登校となる子どもたちが増加傾向にあります。このことから、いくつかの学校では子どもたちの心の健康を早期に把握するため、タブレット端末を活用した心の健康チェックを試みたり、積極的にオンライン学習を行ったりしながら、課題の解決に向けた取り組みを実践しています。今後はどの学校でもこうした取り組みを行うとともに、教職員が子どもたち一人ひとりの小さなサインを見逃さないという姿勢で指導にあたれるよう、教育委員会と学校が密接に連携を取り、適切な指導や研修を行うなどして、できる限りの支援に努めてまいります。

ところで、令和2年9月にスポーツ庁から、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする。」という案が示されました。このことから本市においても学校部活動の段階的な地域移行を進めるため、昨年度から部活動の地域移行について協議会を設置し、検討を進めてまいりました。その結果、本年9月からモデル事業として西中学校を会場に柔道の地域クラブ活動を実施していくことといたしました。さらに来年度は全ての中学校と義務教育学校において、1部活を地域移行する計画も立てたところです。長い間、学校が担ってきた部活動を地域で行うには、多くの課題があり、部活動をそのまま地域移行するというのではなく、「土曜、日曜は子どもたちの自主的な活動の日とする」という考え方で地域クラブ活動を推進してまいりたいと考えています。

また、図書館では、「ブックスタート事業」において、絵本の読み聞かせを通じた親子の触れ合い方を紹介することに加え、今年度から絵本の配布も行い、乳幼児期からの子どもの読書活動を推進してまいります。なお、コロナ禍で思うような活動ができなかった市民の皆様の自主的な学びを支援するため、生涯大学院や明治大学・成田社会人大学等の学習機会を充実させることはもちろんのこと、公民館や図書館等を利用した学びがさらに発展していけるよう、適切な支援に努めてまいります。